

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400124		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター都賀(ユニット2)		
所在地	千葉県若葉区都賀4-10-18		
自己評価作成日	平成24年2月2日	評価結果市町村受理日	平成24年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成24年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念であるその人らしさを追求し、共同生活の中にも1人ひとりに合った個別ケアを行いながら、安心・安全で喜びのある生活を送ることができるように支援しています。認知症の状態である方々の事実を受け止め感情に配慮しながら有する能力をできる限り発揮することができるよう支援しています。駅からも近くスーパーやドラッグストア・飲食店が多くあるので、入居者様と共に買い物や化粧品品の選択・外食をしています。今年度から初めて自治会への入会も認められ、今まで以上に地域との関わりを大切にしています。昨年に引き続き介護予防に力を入れて取り組み、今年度は体調不良による通院があるものの1人も入院されることなく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは毎月、当月の月間目標を設定している。毎月の目標は、前月に設定した目標に対して達成状況を振り返り、前月の課題等も踏まえて毎月作成している。職員は月間目標を認識し日々の支援に取り組む事ができている。日々の支援では身体機能低下予防を柱に取り組みしており、外出行事の実施や日常的に利用者が体を動かす機会を取り入れている。その成果として、今年度、病院へ入院するケースは一度も発生なく、利用者の健康状態を維持することができた。地域との関係も、自治会への加入等により連携が深まるなど、地域密着も着実に前進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に唱和し共有に努めている	ホーム事務所内には社是、経営理念を掲示している。さらに毎月、月間目標を設定し、全職員間で共有しながら掲げた目標を日々の支援に反映できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパー、美容室、ファミリーレストラン等を利用し交流を深めている。運営推進会議に民生委員だけでなく初めて自治会長の参加を受けH23年度より自治会に入会している。回覧板を回している。	地域との交流に関しては、地域の盆踊りや夏祭りへの参加、近隣のスーパーやファミリーレストランへの外食を通じ、交流を深めている。また、ホーム周辺の散歩の際に近隣の方からお花を頂く等日常的な交流も広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験の受け入れや千葉市緊急雇用促進事業での受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地震防災訓練について避難所の機能を調べ避難するべきか、ホームに留まり待機するべきかという活発な意見交換を行うことができた	運営推進会議には、自治会長、地域包括支援センター、近隣のグループホーム職員、家族を交え、2か月に一度定期的実施している。会議では行事や現状の報告、地震対策等毎回テーマに沿って報告し、参加者との意見交換を通じ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	確認事項がある時は千葉市高齢施設課に連絡をとっている。また、つきに1度介護相談員の受け入れを行ったり、意見交換会にも参加して協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課職員との連携に関しては、運営上の疑問点の相談のほか、集団指導での助言、行政主催の研修には参加をし、協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠を外している。車椅子を机につけるなどの身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に向けては、外部で開催された「身体拘束廃止研修」に職員が参加し、研修内容を職員に伝達し、職員の意識を高めている。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催する高齢者虐待の研修に参加して学ぶ機会を持ち、カンファレンスで情報共有を行うことにより防止に努めている		

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉市安心ケアセンター主催の成年後見制度研修会や認知症ケア専門士の研修での学ぶ機会を持った。制度を利用されているご家族様からお話を伺う機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明とともに不安や疑問点に答えている。また、改定の際は家族会や手紙・電話などで説明を行い理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内外の苦情窓口に関しては重要事項説明書に明記し、契約時家族に説明している。家族からの意見や要望については電話や面会の他家族会などで表出できる機会を提供している	顧客満足度調査を定期的実施、家族の意向や要望を確認している。また、面会時を通じて、家族から直接意向や要望を収集するなど、家族が気軽にホームに対し意見や要望を表出できる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は毎月の会議時において収集しているほか、日頃から個別に聞く機会を設けている	職員からの意見に関しては、毎月の会議時において収集しているほか、日頃から、各ユニットリーダー、管理者が個別に意見を収集し、必要に応じては職員面接を実施し、職員からの意見や要望等を直接聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や勤務状況に応じてキャリアアップや正社員登用の機会を設けている。行政の研修や資格取得に対しての手当ても支給される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員がEラーニングによる研修を受講した。終業時研修・テクニカル研修のほか、今年度から1年生研修・2年生研修・常勤ミーティングが開催され該当者は参加の機会を得た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政やグループホーム連絡会が主催する研修または他グループホームの運営推進会議に参加しあうことでサービスの質の向上に取り組んでいる		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れることができるよう他入居者様との間に入り声かけをしました職員の顔を覚えていただけるよう多く関わりを持つよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の気持ちに配慮しながらアドバイスではなくまずは聞くことを大切にしながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にまず何が必要かを見極めケースに応じて他の施設やサービスの説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事やレクリエーションを行うことで職員も暮らしを共有できるような関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際には利用者様がおっしゃった昔の話を伝えたり近況を1つでも伝えられるよう心がけている。必要な物品の購入や他科受診の協力を得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係継続の支援に向け、ご家族様の協力を得ながら面会や外出・外泊するほか、友人等の来訪も受け入れている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続の支援に向け、家族の協力を得て、お墓参りに出かける事ができるよう支援するほか、友人の来訪、ホームを退居した利用者が遊びに来るなど、これまでの関係が継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうな時は間に入り声かけをおこなっている。言語障害がある方の伝えたいことを周囲の利用者様に伝えている。		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても面会に赴いたりご家族様からの電話での相談を行っている。退居された入居者様のレクリエーションへの参加を受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉や行動を観察記録しその方の立場に立って考えるように努めている	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、毎月介護相談員の方が来所され、利用者の意向や要望を確認している。また、ケアプラン作成時にはアセスメントにおいて、利用者の現状の課題や要望を個別に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中で解ったことやご家族様に伺ったことをアセスメントへ落とし込んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのしたいことや得意なことに応じ手芸や家事への参加の声かけを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態把握に努め医療関係者からの情報やアドバイス、またご家族様の希望を踏まえ作成している	ケアプラン作成においては、アセスメントで抽出した課題を踏まえ、フロア会議、担当者会議を通じ、職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえたうえで作成している。ケアプランの進捗に関しては定期的にモニタリングを行い、進捗の確認を行っている。	ケアマネジメントの一連の流れにおいて、各ユニット間で実施状況にばらつきが生じないように計画的にケアマネジメントが進んでいく事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録した上でその時必要なケアをカンファレンスで共有し実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化に伴い生まれるニーズに対応できるよう他サービスからの情報収集した上でご家族様と相談しながら支援に取り組んでいる		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の希望に合わせて近隣の美容室へ行き好みの髪型にできるようにしている。ファミリーレストランでは自分で好きなメニューを選んで食事している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の往診を月2回受けるとともに何かあれば連絡をとり指示を受けている。また、疾患に応じてご家族様の協力を得ながら定期的に他科受診されている	利用者が適切な医療を受けられる体制として、協力医療機関による往診や毎週、訪問看護ステーションの看護師による回診など、必要な医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に状況を伝えている。要観察や要受診の見極めなどの相談も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成して担当の看護師との情報交換や認知症である利用者が安心して治療に専念できるよう面会や相談員さんと早期に退院できるよう相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の兆しが見られる利用者様ご家族様に現状及び今後予測される状態を伝えている。必要があるときは医師からの説明の場を提供している	重度化や終末期に向けた方針に関しては、「重度化した場合における対応に関わる指針」において、重度化や看取りに関する指針を説明し、家族の同意を得ている。重度化を向かえた際には、担当医、家族、職員間で連携を図り対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて全員がマニュアルの見直しを行っている。普通救命講習を受けた職員がいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に関しては年2回実施している。地域との協力体制については民生委員に名簿を渡したり避難訓練の報告を行っている。自治会長の言葉にあった避難所まで全員の移動を行った。	防災訓練に関しては、年間2回実施している。訓練では夜間を想定した訓練や実際に広域避難場所まで避難する等、具体的に実施している。地域との協力体制についても、震災直後民生委員が安否の確認に訪れるなど、近隣との協力関係も築けている。	

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ポスター掲示や研修によるコンプライアンス遵守と共に毎年個人情報保護トレーニングを行い、言葉かけや対応に配慮している。	全職員が法人で配布される「コンプライアンスカード」を所持しているほか、毎年定期的に個人情報保護トレーニングを行い、コンプライアンス遵守と共に、個人情報保護についても適切な管理が図れるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや入浴など行動を起こす前に同意を得た上で誘導声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な参加は求めず意思を確認している。なるべく参加していただけるようその方に合った雰囲気づくりに努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧など今までの習慣を理解した上で自力では難しくなってきた時に解らなくなった手順が関わることにより継続して行えるように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や盛り付け、食器洗いなどできる限り参加していただいている	食事に関する一連の作業では、食事の準備や後片付けでは利用者の状態を考慮し、食器拭きやテーブル拭きなどをお願いしている。食材の買い物には、近隣のスーパーまで利用者と一緒に行き買いに出かけている。また、ファミリーレストランへの外食も実施し楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一度に沢山の水分摂取が負担な利用者様にどのような時に喉が渇くのかを聞きまた水分が不足がちであることを伝え相談した結果夜間から朝方にかけて少しづつ摂取することができた		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の生活習慣に合わせ実施している		

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄サインを見極め誘導を行っている。また失禁がいつみられるのかを観察し声かけ誘導を行ったところ失禁が減った	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、「介護記録」内に記録し、職員間で共有している。日中は定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を我慢することがないようにいつも排便が見られる時間には誘導を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日本人の意思を確認し入浴している。1日おきに入りたいなど希望に合わせている	入浴に関しては、利用者の要望を踏まえ入浴できる体制としている。入浴状況についてはチェック表に記し、入浴間隔が開いてしまった人には声をかけ、定期的に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の臥床したい時間に合わせている。テレビが好きで0時頃休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を作成し個別にファイルしている。変更毎に更新している。また変更後は特に状態観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	相撲観戦が好きな方に力士が土俵に上がる前に声をかけ一緒に応援している。10時のお茶の時は1人ひとりに好みを伺って提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方、買い物に行きたい方等それぞれの希望に添えるよう対応している。また自発的にはなかなか外出されない方にも機会が得られるよう努力している	ホーム全体で外出計画を立て、近隣の公園やショッピングセンター等に定期的に外出している。日常的にも、ホーム周辺の散策や近隣のスーパーまでの食材の買い物など利用者の状態を考慮しながら職員と一緒に出かける事ができるよう支援している。	

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所管理だが希望により小銭程度は自己管理されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了承を得た上で不安なとき等に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歌が好きな方がおり好みの歌の歌詞を壁に張りいつでも歌えるようにしている。季節に合った装飾に努めている	利用者が集うリビングルームには、季節を感じられるよう装飾に配慮し、華やかな中にも落ち着ける環境となるよう努めている。廊下やトイレ、浴室の共用部分は清潔に保たれ、転倒の危険となるような物は放置せず、安全性にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥のソファで利用者様同士くつろいで過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りご自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいている。ご家族様の写真などを飾っている。また仏壇をご自宅から持参された方もいる	居室内へはこれまで使い慣れた物の持ち込みが可能で、家具類の配置についても利用者・ご家族と相談の上、危険のないよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を作り居室がわかるようにしている。洗濯物が干しやすいよう屋内に低めの物干しをお設置している		